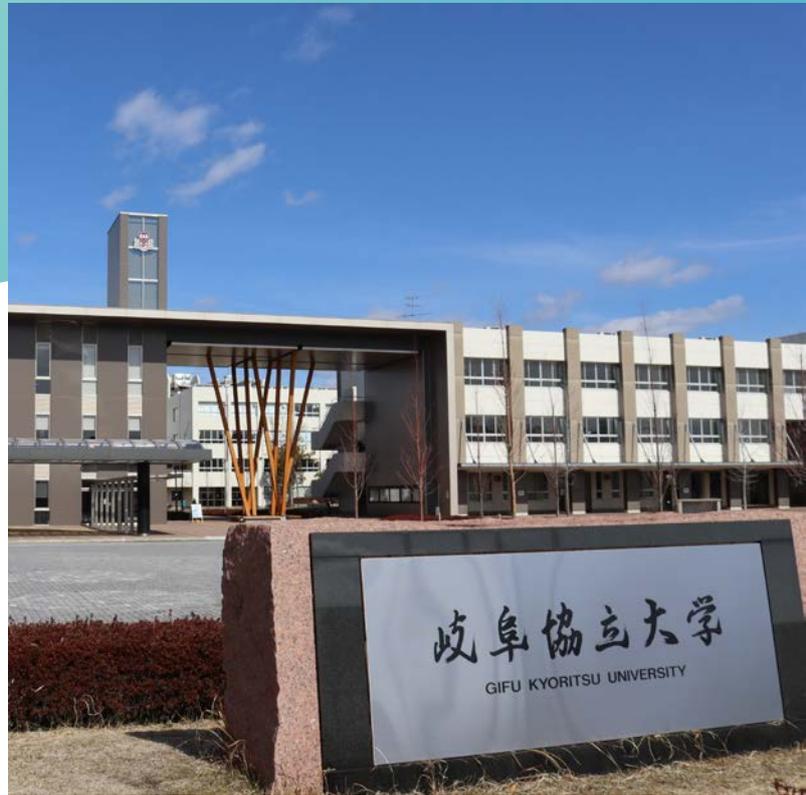


2020年度 事業計画書



岐阜協立大学



大垣女子短期大学

学校法人大垣総合学園

魅力ある大学へ 2020

岐阜協立大学



2020年度 事業計画・収支予算書

2020年度事業計画の概要

一. 教育理念

二. 2020年度の事業計画

I. 教育改革

II. 学生生活の充実

学生が快適な学生生活を過ごせる体制を整備し、支援の充実を図る

III. 地域への貢献と連携

知の拠点としての存在感を確立する

IV. 教育組織・マネジメント

学長のリーダーシップ体制を整備し、教育組織・マネジメントを強化する

V. 戦略的経営

広報戦略ーブランド戦略ーを展開する

外部資金の獲得を目指す

三. 2020年度予算概要

1. 資金収支予算総括表

2. 事業活動収支予算総括表

2020年度収支予算書

自ら学び、発信する主体として成長するために

学長 竹内 治彦

昨年4月、本学は岐阜協立大学として、新たなスタートを切りました。前身の岐阜経済大学の設立趣意書には、格調高い文体で、本学の建学の精神である「創造発見」「知才涵養」「資質発揚」「地域貢献」といったことが書かれていました。知才という言葉には、「社会指導の負荷に耐えうる」という条件がついており、社会の責任あるリーダーを養成したいという思いが感じられます。資質発揚も、「資質の真価を発揚する」と書かれており、自分の100%を発揮できるようにとの思いが感じられます。高度成長期という日本が輝かしく成長していた時代に、この地方にも新しい大学を造るという意気込みが感じられます。

それから50年がたち、大垣女子短期大学と法人合併、同短大に設置されていた3年制の看護学部を移設、4年制とし、大学名称も岐阜協立大学と変更することになりました。50周年事業として行ってきたキャンパス整備も整い、勢いよく新たなスタートを切ることができたのではないかと、大学関係者一同、多少の自負の念を抱いているところです。

このように名称こそ変更しましたが、この大学が50年以上に渡り、ずっと追求してきたことは、建学の精神に通ずる、「地域に有為の人材を養成する」という教育目的です。有為の人材は、辞書的に言えば、「有能な人材、役に立つ人材」となりますが、辞書的な言い換えでは、この言葉を用いた先人の想いは十分には伝わりません。この言葉から、新しい時代に向かって何事かを成し遂げてみせるといった意気込みが感じられないでしょうか？以上のように、本学の精神を語る言葉達には、行動・実践において、その力を表現してほしいという思いが共通して感じられます。つまり、学生には、積極性、主体的な態度が求められます。

主体性を育てる環境整備の一つとして、本学では2020年度、スマートキャンパス構想を進めていきます。タブレット端末を用いた学修を奨励し、3号館のゼミ室や2号館では春先から無線LAN環境を充実させています。他の教室でも、年度内に同様の環境を整備します。こうしたツールを駆使し、先生方とのコミュニケーションを深めながら、新たな知を主体的に学び取り、さらに成果を発信する姿勢を育みたいと考えています。

2020 年度重点事業

- (1) 中途退学者数の減少のため、下記の施策を実施します。
 - ①ICT を活用し出席管理の方法を進化させます。
 - ②オフィスアワー活用状況を集計、分析し、充実策を探ります。
 - ③補講・再試験のあり方を検討しつつ、可能なものから順次、実行します。

- (2) キャンパス整備を進め、2020 年度にスマートキャンパスの基盤を固めます。
 - ①自習環境の整備に重点をおいた施設を設置し、学生の学びを支援します。
 - ②施設、設備、キャンパス整備を中期的に計画するキャンパス整備委員会の活動を活性化します。
 - ③昨年度、計画した Wi-Fi 環境の整備計画を着実に進めます。

- (3) 学修成果の可視化を進め、学生の成長を学生が実感し、また、関係者に伝えることができるように準備します。

- (4) 地域連携を推進します。

西濃地域の全自治体と包括協定を結ぶように努め、実際的な連携活動を推進します。引き続き、地域の首長の方も参加する「地域連携シンポジウム」を開催します。

- (5) 高大連携教育を推進します。
 - ①現在の連携校と連携会議を開催し、実質的な高大連携のあり方を研究します。
 - ②看護学部の学修の魅力をよく広めます。
 - ③岐阜県の高等学校の「総合的な探求の時間」におけるニーズを把握します。特に 2019 年度より始まった「ふるさと岐阜」講座では、多くの高等学校の講座に参画できるように努めます。
 - ④FM 番組を提供し、高校生と企業をつなぐキャリア教育を推進します。
 - ⑤昨年度開始した「高校生ビジネスアイデアコンテスト」に加え、若者の起業家教育にも取り組み、地域における起業活動の中心的な役割を果たします。

2020 年度事業計画の概要

一. 教育理念

○建学の精神、社会的使命、教育目的、教育理念

1. 建学の精神

創造発見
知才涵養
資質発揚
地域貢献

創造発見とはこれまでなかった新しい価値を生み出すことである。知才涵養については社会指導の負荷に耐えうるという条件がついていることも注目せねばならない。また、資質発揚とは、単に奮い立たせるということだけでなく、実社会で発揮するという意味合いも込められていると推察できる。そして、地元先覚の要望に応えるという決意は、今日の言葉でいえば、まさに地域貢献ということになる。

2. 社会的使命

「創知資地」(知を創り、地に資する)

建学の精神の語句の内容をさらに簡潔にまとめるため、4つの建学の精神の頭文字「創・知・資・地」を組み合わせる。これを読み下せば、「知を創り、地に資する」となり、これこそが本学の社会的使命の簡潔な表現となる。

3. 教育目的

「地域に有為の人材を養成する」

4. 教育理念

自主創造教育 (新たな価値をうむ)

さまざまな先入観や偏見などに捉われず、自主的に学び、自由に考え、新たな価値を生む精神を育てる。

地域実践教育 (地域で学び、地域をつくる)

講義等で得た知識をもとに、「地域」の課題を発見し、解決策を考え、提案・行動し、再び理論的な考察にまで結びつける力を養成する。

キャリア形成教育 (キャリアを拓く)

専門教育に加え、豊かな人間性を涵養する教養教育と学生自身のキャリアを拓くための就職支援教育を有機的に総合させた教育を展開する。

二. 2020年度の事業計画

I. 教育改革

1. 全学共通の教育計画

(1) 学修成果の可視化

学修成果の可視化を進めるために、適切なアセスメントテストを実施する。

- ①キャリア支援委員会と連携して、アセスメントテストを実施し、そのレポート結果を学生の履修指導に活用する。
- ②ディプロマポリシーのルーブリック評価表を整備するなど、担任教員による学修成果の達成度評価の実施に向け、準備を進める。

(2) 基礎学力充実支援

「基礎演習」でのグループ作業実施のガイドラインを整備する

(3) 初年次教育の強化

- ①プレイスメントテスト結果を学生情報システムより閲覧可能とする
- ②小テストの実施方法のモデルプランを策定する
- ③オフィスアワー活用者の集計を実施する。(2020年度も継続)

(4) キャリア形成教育の強化

- ①開講科目の内容の充実と、学生が受講しやすい時間割編成をめざす。
- ②キャリア形成に関連する開講科目について、担任教員等の履修相談を充実させる。

(5) 中途退学者数の減少

- ①昨年開発した出席管理システムの運用を進める。
- ②ラーニング・サポート担当者の設置の試行を検証し、本格的実施を目指す
- ③入学前教育を高等学校とも連携しつつ、進めていく。

2. 経済学部教育計画

(1) 地域実践型アクティブラーニングの推進(両学科)

2018年度入学者から地域実践型アクティブラーニング関連科目が必修化されたため、全学生が1~4年次の間に同関連科目の卒業要件単位数を取得することを目指す。

(2) 企業人育成課程の定員充足と教育の充実(経済学科企業人育成課程)

経済学科企業人育成課程において、2年次生からの転入学生も含めて定員を確保し、課程所属学生が全員課程を修了して卒業することを目指す。

(3) 資格試験合格者数の向上

公務員試験合格者の増加(両学科)、社会福祉士国家試験の合格率向上(公共政策学科)公務員試験合格者の前年度からの増加、社会福祉士国家試験の合格率30%以上(5年平均)を目指す。

3. 経営学部教育計画

(1) 情報メディア学科

- ①各種ビジネス情報系資格の資格取得を支援する。
- ②基礎演習における少人数教育を徹底する。

(2) スポーツ経営学科

保健体育教職免許をはじめ、スポーツ系の資格（レクリエーション・インストラクター、初級障がい者スポーツ指導員、サッカーC級コーチ）を多数、取得させる。

①課外体育インターンシップ制度、体育授業インターンシップ制度を周知し、参加者を増やす。基礎演習における少人数教育を徹底する。

4. 看護学部教育計画

①設置計画書に沿った充実した教育カリキュラムを提供する。

②教学体制を整備・充実させる。

③良好な実習環境を整備する。

④図書室を整備・充実させる。

5. 大学院教育計画

①会計・税務分野の実績のPRを強化する。

②大学院生のニーズを反映した教育を充実させる。

③研究倫理教育を強化する。

④社会人＋学部在学学生向け大学院公開授業を開催する。

6. 留学生別科教育計画

①日本留学試験や日本語能力試験の試験結果を分析し、また、学生からの聞き取り調査を行って、講義計画に活用する。

②教育内容の充実に向け個人相談・指導体制を見直す。

7. 中長期教育環境整備計画の策定

①キャンパス整備委員会のもと、中期的な整備計画を作成する。

② 3号館1階（キャリア支援課跡地）等の改修工事を行い学生の利便性を高める。

③ 7号館及び3号館屋上防水処理工事を行う。

④ 4～6号館、8～10号館のWi-Fi環境を整備する。

⑤ 学内光ケーブルの更新を行う。

⑥ 教育用ソフトウェアの購入計画を作成する。

8. 教員個人研究の推進及び共同研究の推進

(1) 教員個人研究の推進

研究業績リストを公表する。また、研究成果の表彰に関して課題などを抽出し、改善を図る。

(2) 共同研究の推進

学外共同研究者の図書館及びコピー利用に関して課題などを抽出し、改善を図る。

9. 教員の外部研究資金獲得の推進

(1) 大垣女子短期大学との研究交流

法人内での共同研究会の開催支援や研究発表などを行う。

(2) 科学研究費

科学研究費採択者による申請書の書き方や研究方法など、実践的な研修を行う。

(3) 受託研究費

受託研究費の関連する教員への情報連絡や相談を実施する。

II. 学生生活の充実

1. 学生への学修支援

(1) 教育課程の体系化

- ①学修成果の達成度を、ルーブリック評価表を用いて評価することによって、学生にその目安を示し、さらにその情報を学生情報システム等に蓄積することによって、学生指導に活用する。
- ②成績評価基準をより明確にし、科目間の評価の基準化を図る。

(2) 公務員試験支援

- ①公務員試験受験に資する開講科目を検討する。
- ②公務員試験に関する個人相談・指導体制の充実を図る。

(3) 教職支援

- ①教職免許をめざす学生のための指導体制・支援体制の充実を図る。
- ②正課・PAC講座について、より合理的な科目編成を構築する。

(4) 社会福祉士国家試験対策支援

- ①社会福祉士養成教育の充実に向けた支援体制を構築する。
- ②関連法令の改正に照らし、社会福祉士課程における内容の調整と整備を行う。

(5) 看護師国家試験対策支援

- ①低学年からの看護師国家試験対策講座を実施する。
- ②学生による看護師国家試験対策委員会を設置し、活動の充実を図る。

2. 学生への生活支援

(1) 課外活動支援

- ①課外活動団体の新設支援をする。
- ②五月祭・大学祭への参加者を増やすための支援をする。

(2) 学生の生活支援

- ①高等教育の修学支援制度実施に伴い学内ルールを確立する。
- ②岐阜協立大学奨学金制度の見直しをする。

(3) 課外活動での事故防止対策要領の策定と徹底実施

(4) 特別なニーズを持つ学生支援

- ①学生支援部内において情報共有を行い、特別なニーズをもつ学生に対して適切な支援を行う。
- ②特別なニーズをもつ学生を早期に見つけるための仕組みを検討する。
- ③各種研修会参加により、担当者のスキルアップを図る。

(5) 留学生支援

- ①外国人留学生対象の学外奨学金を積極的に取り入れる。
- ②日本の生活ルールや交通マナーなどを教えることにより、日本での生活を充実させるための支援を行う。
- ③日本文化理解のため、「大垣祭り」や「十万石まつり」などに積極的に参加させる。

(6) 国際交流支援

- ①異文化体験事業の実施に向けて取り組む。

②外国人留学生同士の交流会、日本人学生との交流会、学外の方との交流機会を提供する。

③他国の看護大学との学生交流を検討する。

(7) 図書館利用の活性化

①図書館サポーターの支援を充実し、図書館活性化を進める。

②新入生以外にも必要に応じ図書館ガイダンスを実施し、利用者を増やす。

1年次全学生への図書館利用ガイダンスを実施するとともに、2年次生以上の希望者へも随時ガイダンスを実施する。

③開館時間の拡大

利用者アンケートを実施し、開館時間の拡大などを利便性向上策の具体を検討する。

④図書、新聞・雑誌の整備

・2019年度実績を基礎に収書を行う。

・看護系図書488冊、学術雑誌23種を整える。

・学術雑誌の見直しを行うと共に電子化についても検討していく。

3. 学生へのキャリア支援

(1) 資格講座（学内での資格取得講座の開講）

①日商簿記講座（2級・3級）

②マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）（Word2016・Excel2016）

③ITパスポート

(2) 多様な進路の実現のための就職支援プログラム

①各種支援プログラムの実施（キャリア形成の授業を含む）

②企業訪問、合同企業説明会への出席

③インターンシップの推進

④急性期医療・地域医療など多様な医療施設の視察と研修の実施

(3) 卒業生のネットワークを再構築し、卒業生のメンター活動を活性化する

①卒業生を業界、企業研究講座、就職支援講座、キャリア形成講座の講師に招聘するなどし、学生の在学中の目標設定、社会人基礎力の醸成、職業観の形成につなげる。

②2019年度の卒業生にwebアンケートを実施する。

③校友会との連携事業を進める。

(4) 日本で就職を希望する外国人留学生向けの就職支援

①キャリア形成Ⅰ・Ⅱにおいて、ビジネスジャパニーズの授業を行う。

②キャリア形成Ⅲ・Ⅳの授業を紹介する。

③ハローワーク大垣と連携して就職支援を行う。

④外国人留学生向け就職ガイダンスの充実をはかる。

⑤合同就職説明会に出向き、外国人留学生の採用企業の開拓を行う。

Ⅲ. 地域への貢献と連携

1. 地域連携の推進

①新規委託事業の開拓をすすめる。

②外部へ発信する事業の増加をはかる。

③ワークショップ・講演会を増やす。

2. 高大連携の推進

①現在の連携校と連携会議を開催し、実質的な高大連携のあり方を研究する。

②看護学部の学修内容を周知する。

③高等学校の「総合的な探求の時間」におけるニーズ把握、とくに岐阜県における「ふるさと岐阜」講座において、多くの高校において参画する。

④2018年度から実施している「高校生ビジネスアイデアコンテスト」を成長発展させる。事前学習の講師派遣など、高大接続教育の形をつくる。

3. 大学間連携の推進

①同規模で同様の課題を持つ他大学との連携に努める。

②事務職員を含めた連携を模索する。併せて、看護学部設置に伴う新たな連携可能性も追求する。

4. 産官学連携の推進

①大垣市及び近隣自治体との連携会議を行う。

②西濃圏域を中心に新たな連携を追求する。

IV. 教育組織・マネジメント

1. 学長のリーダーシップを発揮しうる体制の充実

①学長の方針に基づいた運営を可能とする体制整備を進める。

2. FD活動の支援

①前年度の検討を踏まえたFD活動の内容と開催時期の設定を行う。

②小テストの実施方法を共有する。(教務委員会と共同実施)

③「演習」科目でのグループによる作業をテーマとした研究授業を実施する。(教務委員会と共同実施)

④2020年度の目標は、授業評価アンケート実施率100%、自己評価レポートの提出率90%である。FD研修会については教員の100%が参加する。

3. SD活動の推進

①他大学との共同研修を企画し実施する。

②効果的な階層別研修の企画と学外研修への派遣を行う。

4. IR活動の推進

①IR推進委員会への専門教職員の配置を行う。

②学外への発信を強化する。

5. 自己点検・自己評価の実行

①自己点検評価書を提出し、実地調査を受審する。

②評価報告書を公開する。

6. 危機管理・防災対策

①ハラスメント防止・対策

・ハラスメント関係規程(ガイドライン)の改正を施行する。

・教職員を対象としたハラスメント研修会を実施する。

- ・外部研修派遣など、相談員およびハラスメント委員への学習機会提供を継続して行う。

②情報セキュリティ対策

- ・各課室で管理する情報の取扱状況を把握し、情報漏えいリスクを低減する対策を施す。
- ・情報セキュリティ講習会を実施する。

③衛生管理

- ・教職員の心身の健康障害防止及び健康保持増進に努める。
- ・事業者に対し健康診断の実施を義務付けている労働安全衛生法を遵守する。

④防災

大規模災害の発生に備えた関係部局等の実働的な連携体制を強化する。

- ・防災マニュアルの周知徹底を行う。
- ・防災マニュアルの検証、修正を行う。
- ・危機管理規程や基本マニュアルについて、ハラスメント・感染対策・情報セキュリティ・防災・海外渡航など各分野の規程との整合性を確認し、新たに作成の必要がある場合は作成する。

7. 関係団体との連携

- ①在学生に対し、親和会、校友会それぞれが実施している事業の認知度について調査する。
- ②それぞれのホームページの掲載内容を充実し、アクセス数の確認や寄せられる意見などへの対応を図る。
- ③親和会、校友会が協力してできる事業について話し合う合同役員会の開催を図る。

V. 戦略的経営

1. 学生募集広報活動

これまでの大学広報を全体的に見直し、大学並びに法人全体での発信力の強化に有効な方策を実施する。

2. 大学財政の健全化

奨学費支出を段階的に減らしていく。

3. 私立大学等経常費補助金・私立大学等経営強化集中支援事業の継続的獲得

教育改革を推進することで、十分な補助金を受けようとする。

4. 組織・業務

- ①新学部設置への対応、法人合併の効果が見込める部門を先行して順次事務組織改編を行う。
- ②事務マニュアルの整備を徹底するとともに、アウトソーシングが可能な業務整理を行う。

5. 評価活動

教員、事務職員それぞれの評価活動を試行開始するとともに、評価を処遇に反映させた正式運用のための課題を整理し、評価者訓練を行う。

三. 2020年度予算概要

1. 資金収支予算総括表

(単位：千円)

科目	2019年度	2020年度			差異
	当初予算額	経済学部 経営学部等	看護学部	計	
収入の部					
学生生徒等納付金収入	1,556,080	1,486,060	255,100	1,741,160	185,080
手数料収入	30,559	22,470	7,313	29,783	△ 776
寄付金収入	7,250	6,980	670	7,650	400
補助金収入	310,237	260,301	33,667	293,968	△ 16,269
付随事業・収益事業収入	21,700	22,600	6,900	29,500	7,800
受取利息・配当金収入	12,000	8,900	100	9,000	△ 3,000
雑収入	50,820	49,290	690	49,980	△ 840
前受金収入	360,820	299,951	91,460	391,411	30,591
その他の収入	87,173	122,058	1,561	123,619	36,446
資金収入調整勘定	△ 405,050	△ 328,710	△ 91,460	△ 420,170	△ 15,120
収入の部小計	2,031,589	1,949,900	306,001	2,255,901	224,312
前年度繰越支払資金	2,805,553	2,835,817	0	2,835,817	30,264
収入の部合計	4,837,142	4,785,717	306,001	5,091,718	254,576
支出の部					
人件費支出	1,125,329	926,475	255,875	1,182,350	57,021
教育研究経費支出	690,428	745,349	53,454	798,803	108,375
管理経費支出	162,291	158,625	16,569	175,194	12,903
設備関係支出	40,751	27,454	3,354	30,808	△ 9,943
その他の支出	64,323	60,440	2,024	62,464	△ 1,859
[予備費]	30,000	30,000	0	30,000	0
資金支出調整勘定	△ 35,000	△ 35,000	0	△ 35,000	0
支出の部小計	2,078,122	1,913,343	331,276	2,244,619	166,497
翌年度繰越支払金額	2,759,020	2,872,374	△ 25,275	2,847,099	88,079
支出の部合計	4,837,142	4,785,717	306,001	5,091,718	254,576
収支差額	△ 46,533	36,557	△ 25,275	11,282	57,815

※記載単位を千円としているため合計等計算書と一致しない場合があります

【資金収支 収入の部予算額】

前年度予算額より2億2,431万円の増額予算の見込みとなります。これは、国庫補助制度の変更による補助金の減収がある一方で、看護学部開設2年目及び既存学部での入学定員を上回る入学生を2年連続で確保したため学生生徒納付金収入が増収するためです。なお、各科目の増減理由は下記の通りです。

【収入の部 増減理由】

(2020年度当初予算額／前年度比較増減額)

<学生生徒等納付金収入>

(17億4,116万円／1億8,508万円)

学費納付者数は、学部154名増、大学院9名減、留学生別科3名増となり全体で148名増加によるものです。右表は学年別の学費納付見込み学生数です。

学部	2020年度		2019年度	定員数
	経済・経営	看護		
1年次	400名	85名	454名	430名
2年次	388名	72名	323名	430名
3年次	319名		319名	350名
4年次	307名		320名	350名
5年次以上	17名		18名	—
計	1,431名	157名	1,434名	1,560名

大学院	2020年度	2019年度	定員数
1年	4名	10名	20名
2年以上	5名	10名	20名
長期履修	3名	1名	—
計	12名	21名	40名

留学生別科	2020年度	2019年度	定員数
	18名	15名	30名

<手数料収入> (2,978万円/△76万円)

入学検定料収入は前年度と同額を見込みましたが、試験料収入及び在籍料収入が減収見込みのため全体では76万円の減収見込みです。

<寄付金収入> (765万円/40万円)

ボート部振興寄付金、スポーツ振興寄付金及び親和会からの寄付金受入により全体で765万円の収入を見込んでいます。

<補助金収入> (2億9,396万円/△1,626万円)

国庫補助金は、3年間の継続補助事業である私立大学等経営強化集中支援事業の最終年及び看護学部開設2年目に伴う収入を計上する一方で、学費減免補助制度の変更により全体では1,626万円の減収見込みです。

<付随事業・収益事業収入> (2,950万円/780万円)

受託事業収入2,850万円により全体で780万円の増収見込みです。

<受取利息・配当金収入> (900万円/△300円)

有価証券等の利息収入は前年度比300万円減の900万円を見込んでいます。

<雑収入> (4,998万円/△84万円)

定年退職者は前年度比1名増(3名)ですが、退職者の勤続年数の違いにより私立大学退職金財団からの交付金収入は同額の見込みです。

<前受金収入> (3億9,141万円/3,059万円)

2021年度の入学者は、経済学部及び経営学部は400名、看護学部は85名の学部全体で487名(転編入者2名含む)、大学院では前年比6名減、留学生別科は3名増の入学予定者を計上しました。また、消費税法改正及び教育環境の継続的な整備財源を確保するため経済学部及び経営学部の学費を値上げしたため全体では3,059万円の増収見込みです。

	2020年度	2019年度
経済、経営学部	402名	390名
看護学部	85名	80名
大学院	4名	10名
留学生別科	18名	15名
計	509名	495名

<その他の収入> (1億2,361万円/3,644万円)

大学校舎(3号館及び7号館)の補修事業に減価償却引当特定資産を充当するため、5,000万円を取り崩しています。

【資金収支 支出の部予算額】

前年度予算額より1億6,649万円の増額予算です。これは看護学部開設2年目となる人件費及び経費の増額、北方キャンパス校舎の維持補修事業、学内光ケーブル及びWi-Fi環境整備等のインフラ整備事業を計上したことによるものです。なお、各科目の主な増減理由は下記の通りです。

【支出の部 増減理由】 (2020年度当初予算額/前年度比較増減額)

＜人件費支出＞ (11億8,235万円/5,702万円)

教職員人件費は、看護学部開設2年目の専任教員新規採用により8,415万円の増額がある一方で、経済学部及び経営学部教員採用の見送り、退職職員の不補充等により人件費全体では5,702万円の増額予算を計上しています。

＜教育研究経費支出＞ (7億9,880万円/1億837万円)

教育研究経費予算は、看護学部開設2年目による経費、7年に1度受審が義務付けられている認証評価経費、北方キャンパス校舎維持補修工事及び学生がiPadを持ち込んで授業を受けるためのWi-Fi整備事業を計上しています。

＜管理経費支出＞ (1億7,519万円/1,290万円)

管理経費予算は、学生募集に係るマーケティングシステムの導入や北方・西之川キャンパス間スクールバスの増便等を計上したため1,290万円の増額予算を計上しています。

＜設備関係支出＞ (3,080万円/△994万円)

学内光ケーブル更新に伴う通信機器購入、授業収録システムの導入、教育成果を可視化するシステム構築費用等を計上し、全体では994万円の減額予算を計上しています。

以上の結果、キャッシュフローでは、1,128万円の収入超過予算となり、次年度の繰越支払資金(現・預金)は、28億4,709万円の見込みです。

2. 事業活動収支予算総括表

【事業活動収支の概要】

教育研究活動や財務活動（教育活動外収支）による経常的収支と資産売却や処分等の臨時的収支に区分することで、それぞれの収支状況が把握でき、学校法人会計の特徴である基本金についても組入れ前と組入れ後の収支状況を表示しています。

科目の多くが資金収支と重複するため、事業活動収支における特記事項のみ記載します。

【増減理由】

(単位：千円)

<その他の特別収入>

(50万円/△15万円)

現物寄付50万円を計上しています。

<資産処分差額>

(795万円/715万円)

図書処分差額を増額計上しています。

<基本金組入額>

(2,285万円/

△9億8,621万円)

スマートキャンパス事業における学内光ケーブル敷設、授業収録システム等の取得に要した施設設備の基本金を組入れます。

科目	2019年度	2020年度			差異		
	当初予算額	経済学部 経営学部等	看護学部	計			
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	1,556,080	1,486,060	255,100	1,741,160	185,080
		手数料	30,559	22,470	7,313	29,783	△ 776
		寄付金	7,250	6,980	670	7,650	400
		経常費等補助金	310,237	260,301	33,667	293,968	△ 16,269
		付随事業収入	21,700	22,600	6,900	29,500	7,800
		雑収入	50,820	49,290	690	49,980	△ 840
	小計	1,976,646	1,847,701	304,340	2,152,041	175,395	
	支出	人件費	1,120,406	923,381	255,875	1,179,256	58,850
		教育研究経費	981,524	971,669	110,488	1,082,157	100,633
		(内、減価償却)	291,096	226,320	57,034	283,354	△ 7,742
管理経費		213,897	208,636	19,211	227,847	13,950	
小計	2,315,827	2,103,686	385,574	2,489,260	173,433		
収入	△ 339,181	△ 255,985	△ 81,234	△ 337,219	1,962		
勤労収入	受取利息・配当金	12,000	8,900	100	9,000	△ 3,000	
	小計	12,000	8,900	100	9,000	△ 3,000	
収入	12,000	8,900	100	9,000	△ 3,000		
経常収支差額	△ 327,181	△ 247,085	△ 81,134	△ 328,219	△ 1,038		
特別収支	収入	その他の特別収入	650	500	0	500	△ 150
		小計	650	500	0	500	△ 150
	支出	資産処分差額	801	7,957	0	7,957	7,156
		小計	801	7,957	0	7,957	7,156
収支差額	△ 151	△ 7,457	0	△ 7,457	△ 7,306		
[予備費]	10,000	10,000	0	10,000	0		
基本金組入前収支差額	△ 337,332	△ 264,542	△ 81,134	△ 345,676	△ 8,344		
基本金組入額	△ 1,009,066	△ 19,497	△ 3,354	△ 22,851	986,215		
収支差額	△ 1,346,398	△ 284,039	△ 84,488	△ 368,527	977,871		
前年度繰越収支差額	94,210	△ 1,253,396	0	△ 1,253,396	△ 1,347,606		
翌年度繰越収支差額	△ 1,252,188	△ 1,537,435	△ 84,488	△ 1,621,923	△ 369,735		

※記載単位を千円としているため合計等計算書と一致しない場合があります

以上の結果、本業である教育活動収支は3億3,721万円の支出超過予算となり、教育活動外収支（受取利息・配当金収入）を含めた経常収支差額においても3億2,821万円の支出超過予算となります。

また、基本金組入前の全体の収支は、3億4,567万円の支出超過、基本金2,285万円を組入れた結果、当年度の収支差額は3億6,852万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は16億2,192万円の累積赤字となる見込みです。

大垣女子短期大学



2020年度事業計画・収支予算書（案）

2020年度事業計画

2020年度事業計画の概要

- 一．教育に関する基本方針
- 二．ビジョン及び2020年度の事業計画
 - I．教育改革
 - II．学生生活の充実
 - III．地域への貢献と連携
 - IV．教育組織・マネジメント
 - V．戦略的経営
- 三．2020年度予算概要
 - 1．資金収支予算総括表
 - 2．事業活動収支予算総括表

2020年度収支予算

2020年度事業計画の概要

一. 教育に関する基本方針

1. 建学の精神

中庸を旨とし 勤労を尊び 職業人としての総合能力を有する 人間性豊かな 人材の養成

2. 教育理念

豊かな人間性を培い、専門的な知識や技能を身につけて、積極的に地域や社会で貢献できる女性の育成

3. 各学科の設置目的

本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神を基本理念として、広い教養を培うとともに深く専門の技芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を有する女性を育成し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に貢献することを目的とする。

これにそって、次の5学科をそれぞれの目的をもって設置する。

1) [幼児教育学科]

専門的な知識と技能に基づいて、教育・保育と子育て支援にあたることのできる保育者の育成

2) [デザイン美術学科]

造形表現力の助長とすべての学生生活を通して個々人の人間性の涵養

3) [音楽総合学科]

広範囲な教養及び高度な専門知識、技術を身につけた有能な人材の育成

4) [歯科衛生学科]

口腔保健・医療・福祉における専門的知識及び技術をもった人材の育成

5) [看護学科]

豊かな人間性を基盤に、看護に必要な専門的知識・技術・態度を身につけた有能な人材の育成

4. 教育方針

- 1) 一人ひとりの学生を大切にして主体性と自律性を培う教育 (学生重視の姿勢)
- 2) 目標をもってそれぞれの専門的な知識や技能を学べる教育 (知識技能の修得)
- 3) 徳育を重視しながら知育・体育とのバランスのとれた教育 (徳・知・体の調和)
- 4) 自然や社会の環境と生命を大切にしていく感性を磨く教育 (環境と生命重視)
- 5) 地域社会への貢献をとおして自己効力感を体得できる教育 (地域貢献の取組)
- 6) 各学科の特性を互いに生かし合ってつながりをもった教育 (学科交流の推進)

二. ビジョン及び2020年度の事業計画

I. 教育改革

- ・社会に貢献できる女性の養成に向けて、方針（目的・目標）、手立て（教育課程と教育内容）、方法（教育力・研究活動）、環境（施設・設備）の明確化・向上・充実を図り、教育の質の向上をめざす。
- ・学生が専門に応じた確実な知識・技能を身につけていくことができるよう学びの向上を図り、短期高等教育機関としての社会的期待に確実に応えることをめざす。
- ・総合短期大学としての性格を一層強め、これを生かした特色ある教育の拡充をめざす。

II. 学生生活の充実

- ・学生が学びと成長に向けた適切な学生生活を過ごせるよう、組織や環境を整備し、学修支援と生活支援の充実をめざす。
- ・学生の就職に向けたキャリア形成を組織的計画的に行うなど、社会人に向けた支援の充実をめざす。

(1) 奨学金事業

本学独自の奨学金制度として「大垣女子短期大学奨学金規程」、「安田特別奨学金規程」に則り、成績優秀ながらも経済的事情を抱える学生に対して、学費の負担軽減を図ります。

また、「同窓生奨学金」として、学園同窓生の子女姉妹等入学生の入学検定料免除も、継続します。

(2) 健康支援事業

学生の定期健康診断はもとより、健康調査等を通じて学生の意識を調査し、対応策を検討します。また、学生相談室を設置し、臨床心理士による面談等を実施するなど、心身の健康の保持増進に努めます。

(3) 学生保険事業

学生生活で発生し得る事故等への対応として傷害保険及び賠償責任保険に加入し、万一に備えます。

(4) スクールバス運行委託

通学の利便性を図るため、通学時間帯を中心に大垣駅と本学の間で定期バスを運行します。また、大垣女子短期大学を經由した岐阜協立大学発着便も、前年度に引き続き運行します。

(5) キャリア形成・就職支援事業

教養の向上、キャリア形成、就職支援の観点から、様々な取組を行います。

1年次生は日本語検定3級以上にチャレンジし合格を目指します。また、適切な時期に外部講師を招聘し、専門性の一層特化した講演、講座を開講します。

企業等説明会参加等に参加するなど、マッチングの場を提供します。また、企業等向けの大学案内を制作し企業に送付するなど、企業等へのPR活動にも力を注ぎます。

学 科	取得可能な免許・資格
幼 児 教 育 学 科	幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、認定ベビーシッター資格、社会福祉主事任用資格、母子指導員任用資格、音楽療法士2種、レクリエーション・インストラクター資格、ピアヘルパー、介護職員初任者研修
デ ザ イン 美 術 学 科	CGクリエイター検定、色彩検定、ピアヘルパー、介護職員初任者研修
音 楽 総 合 学 科	音楽療法士2種、社会福祉主事任用資格、ヤマハグレード、カワイピアノグレード、ピアヘルパー、介護職員初任者研修
歯 科 衛 生 学 科	歯科衛生士国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格、ピアヘルパー
看 護 学 科	看護師国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格

III. 地域への貢献と連携

- ・地域との結びつきをさらに深めて確実な連携と貢献ができることをめざすとともに、知の拠点としての存在感を確立することをめざす。
- ・高大連携やネットワーク大学コンソーシアム岐阜に所属する大学間との連携を深める。

(1) 子育てサロン「ぷっぷあ」及び「子育てママ大学」運営

平成20年度に開設以降、地域にすっかり定着した学内設置の子育てサロンを引き続き開設します。これは、外に出向くことなく学内で各学科学生の学びを深化できます。加えて地域の子育て中の保護者を応援する場面としても認知されています。開設は、木曜日の10時から12時（長期休暇期間中を除く）を予定し、大学ホームページで告知を図ります。

また、大垣市の委託事業「子育てママ大学」を、前年度に引き続いて開講します。

(2) こども祭（1月）

学生の学修成果発表の機会と地域の子育て支援の一環として、主として幼児教育学科が企画・運営し、劇、演奏、遊びのコーナーなどの内容で開催します。

(3) 学外演奏会（音楽総合学科）

行政機関や企業団体のイベント、保育園や小学校等からの依頼に基づき、日頃の練習成果を発表できる場面として位置付けて学生が出向きます。

(4) 公開講座・出前講座

地域住民の生涯学習の一環として、公開講座、出前講座を設け、大学ホームページを通じて広く告知し、要望に応じて対応します。

(5) 大垣市等との連携事業

大垣市で開催される「十万石まつり」、「市民の健康広場」、「歯の健康フェスティバル」等に参加し、学生の学びを披露するなど、地域の高等教育機関としての役割を果たすように努めます。

IV. 教育組織・マネジメント

- ・学長のリーダーシップ体制をいっそう確実なものとして、PDCA サイクルに基づく教育組織・マネジメントの強化をめざす。

- ・自己点検・評価活動を実施する。
- ・危機管理・防災対策への取組を強化し、安全・安心な大学運営と地域社会から信頼される組織をめざしていく。

V. 戦略的経営

- ・教職一体となった学生募集を展開し、安定的な入学生を確保し財務の向上を図る。
- ・ブランド戦略を基本とする広報戦略を展開するとともに、外部資金のよりいっそうの獲得をめざす。
- ・公平で公正な人事評価を導入し、組織の活性化と人材育成につとめていく。

三. 2020 年度予算概要

1. 資金収支予算総括表

(単位：千円)

科目	2020 年度予算額	2019 年度予算額	比較増減額
収入の部			
学生生徒等納付金収入	596,225	658,530	△62,305
手数料収入	7,445	6,770	675
寄付金収入	9,952	17,052	△7,100
補助金収入	66,080	66,110	△30
付随事業・収益事業収入	7,355	8,070	△715
受取利息・配当金収入	340	470	△130
雑収入	2,050	2,400	△350
単年度収入の計	689,447	759,402	△69,955
前受金収入	241,850	254,515	△12,665
その他の収入	90,012	97,510	△7,498
資金収入調整勘定	△258,112	△284,340	26,228
収入の部小計	763,197	827,087	△63,890
前年度繰越支払資金	845,042	906,174	△61,131
収入の部合計	1,608,239	1,733,261	△125,021
支出の部			
人件費支出	473,546	536,056	△62,510
教育研究経費支出	138,035	163,415	△25,380
管理経費支出	114,069	89,848	24,221
施設関係支出	3,913	21,148	△17,235
設備関係支出	3,658	22,404	△18,746
資産運用支出	0	0	0
[予備費]	5,000	5,000	0
単年度支出の部	738,221	837,871	△99,650
その他の支出	86,000	93,388	△7,388
資金支出調整勘定	△16,011	△14,593	△1,417
支出の部小計	808,209	916,666	△108,456
翌年度繰越支払資金	800,029	816,595	△16,565
支出の部合計	1,608,239	1,733,261	△125,021
収支差額	△45,012	△89,579	44,566

※千円未満切捨てのため合計等金額が一致しない場合があります。

【資金収支 収入の部予算額】

前年度予算額よりも 6,389 万円の減額予算の見込みです。在籍料の増額もあり手数料収入の増額がある一方、学生募集を停止している看護学科の在籍者数が 1 学年分減少し、学生生徒等納付金収入が大きく減少していることから、減額予算となっています。なお、科目の増減理由は下記のとおりです。

【収入の部 増減理由】

(2020 年度当初予算額／前年度比較増減額)

< 学生生徒等納付金収入 >

(5 億 9,622 万円／△6,230 万円)

学納金納付者数は、学生募集を停止している看護学科在籍者数の減少もあり、全体では 53 名減少の見込みです。右表は、年次別の学納金納付見込み学生数です。

	2020 年度	2019 年度	収容定員	
			2020 年度	2019 年度
1 年次	185 名	173 名	200 名	280 名
2 年次	175 名	262 名	200 名	280 名
3 年次	187 名	165 名	180 名	180 名
計	547 名	600 名	580 名	660 名

<手数料収入> (744 万円/△67 万円)

入学試験の検定料と履修証明プログラムの受講料を計上する入学検定料収入は 19 万円の増収を見込み、在籍料収入も 55 万円の増収を見込んでいます。看護学科在籍者数の減少に伴い試験料収入、証明手数料収入は減額を見込んでいますが、全体では 67 万円の増収を見込んでいます。

<寄付金収入> (995 万円/△710 万円)

前年度は、創立 50 周年に伴うみずき会（保護者会）からの特別寄付がありましたが、本年度は例年並みの寄付を見込み、全体としては 710 万円の減収を見込んでいます。

<補助金収入> (6,608 万円/△3 万円)

地方公共団体補助金収入で 3 万円の減収を見込んでいます。

<付随事業・収益事業収入> (735 万円/△71 万円)

教員免許状更新講習料収入で 70 万円の減収を見込み、全体としては 71 万円の減収を見込んでいます。

<受取利息・配当金収入> (34 万円/△13 万円)

前年度と同様、定期預金での運用を主体としていますが、定期預金金利の低下もあり、13 万円の減収を見込んでいます。

<雑収入> (205 万円/△35 万円)

施設設備利用料収入、その他の雑収入ともに減収を見込んでおり、全体としては 35 万円の減収を見込んでいます。

<前受金収入> (2 億 4,185 万円/△1,266 万円)

入学予定者数は前年度よりも 12 名多い 185 名を見込んでおり、その分前受金収入は増収が見込まれるものの、一方で看護学科廃止予定に伴い前受金収入は 4 学科のみとなるため、全体としては 1,266 万円の減収を見込んでいます。

入学者数	2020 年度	2019 年度
幼児教育学科	42 名	43 名
デザイン美術学科	35 名	35 名
音楽総合学科	49 名	45 名
歯科衛生学科	59 名	50 名
計	185 名	173 名

<その他の収入> (9,001 万円/△749 万円)

預り金受入収入は、主にみずき会、学友会、同窓会の資金となっており、全体で 600 万円の減収を見込んでいます。みずき会、学友会、同窓会の預り金は預り金支払支出としても計上しており、一時的な預り金となります。

また、減価償却引当特定資産取崩収入は、前年度と同額（2,000 万円）を計上しています。

【資金収支 支出の部予算額】

前年度予算額よりも1億845万円の減額予算です。PCB廃棄処分に係る支出もあり管理経費支出は増額するものの、看護学科の一部教員が岐阜協立大学に配置換えとなることによる人件費の減額に加え、教育研究経費支出、施設関係支出、設備関係支出も減額することから、全体では減額予算となっています。なお、科目の増減理由は下記のとおりです。

【支出の部 増減理由】

(2020 当初予算額／前年度比較増減額)

＜人件費支出＞ (4億7,354万円／△6,251万円)

看護学科の一部教員の配置換えに伴い、教員人件費支出が5,792万円減額することから、全体として6,251万円の減額を見込んでいます。

＜教育研究経費支出＞ (1億3,803万円／△2,538万円)

リース物件が増えたことから賃借料支出が前年度を599万円上回る予算で計上していますが、消耗品費支出、委託・報酬・手数料支出が大きく減額し、全体としては2,538万円の減額を見込んでいます。

＜管理経費支出＞ (1億1,406万円／2,422万円)

PCB廃棄処分に伴う支出により、委託・報酬・手数料支出が前年度を2,458万円上回る予算を計上してことから、全体としても2,422万円の増額を見込んでいます。

＜施設関係支出＞ (391万円／△1,723万円)

A号館内エアコンの代替、高圧ケーブル改修、受電機器改修を予定していますが、全体としては前年度比較で1,723万円の減額を見込んでいます。

＜設備関係支出＞ (365万円／△1,874万円)

勤怠管理システムの導入、情報機器の更新、学生証作成プリンターの導入を予定していますが、全体としては前年度比較で1,874万円の減額を見込んでいます。

＜その他の支出＞ (8,600万円／738万円)

預り金支払支出は、主にみずき会、学友会、同窓会の資金であり、預り金支払支出は1,000万円の減額を見込み、全体としては738万円の減額を見込んでいます。

以上の結果、キャッシュフローでは、4,501万円の支出超過予算となり、次年度の繰越支払資金（現・預金）は、8億2万円となる見込みです。

2. 事業活動収支予算総括表

【事業活動収支の概要】

教育研究活動や財務活動（教育活動外収支）による経常的収支と、資産売却や処分等の臨時的収支に区分することで、それぞれの収支状況が把握でき、学校法人会計の特徴である基本金についても組入れ前と組入れ後の収支状況を表示しています。

科目の多くが資金収支と重複するため、事業活動収支における特記事項のみ記載します。

(単位：千円)

	科目	2020年度予算額	2019年度予算額	比較増減額
教育活動収支	学生生徒等納付金	596,225	658,530	△62,305
	手数料	7,445	6,770	675
	寄付金	9,952	17,052	△7,100
	経常費等補助金	66,080	66,110	△30
	付随事業収入	7,355	8,070	△715
	雑収入	2,050	2,400	△350
	教育活動収入計	689,107	758,932	△69,825
	人件費	473,546	536,056	△62,510
	教育研究経費	253,035	313,415	△60,380
	（内、減価償却額）	115,000	150,000	△35,000
	管理経費	128,069	103,048	25,021
	（内、減価償却費）	14,000	13,200	△800
	教育活動支出計	854,650	952,519	△97,869
	教育活動収支差額	△165,543	△193,587	28,044
支 動 教 育 外 収 活	受取利息・配当金	340	470	△130
	教育活動外収入計	340	470	△130
	教育活動外収支差額	340	470	△130
経常収支差額	△165,203	△193,117	27,914	
特 別 収 支	その他の特別収入	1,550	1,500	50
	特別収入計	1,550	1,500	50
	資産処分差額	500	500	0
	特別支出計	500	500	0
	特別収支差額	1,050	1,000	50
[予備費]	5,000	5,000	0	
基本金組入前当年度収支差額	△169,153	△197,117	27,964	
基本金組入額合計	△14,000	△48,907	34,907	
当年度収支差額	△183,153	△246,024	62,871	
前年度繰越収支差額	△1,762,904	△2,846,491	1,083,586	
基本金取崩額	0	982,521	△982,521	
翌年度繰越収支差額	△1,946,057	△2,106,994	160,936	

【特別収支増減理由】

<その他の特別収入> (155万円／5万円)

みずき会からの現物寄付を計上しています。

<資産処分差額> (50万円／±0円)

前年度と同額を計上しています。

<基本金組入額> (△1,400万円／3,490万円)

基本金対象資産の取得金額を基本金に組入れしています。

以上の結果、本業である教育活動収支は1億6,554万円の支出超過予算となり、教育活動外収支（受取利息・配当金収入）を含めた経常収支差額においても1億6,520万円の支出超過予算となります。

また、基本金組入前の全体の収支は、1億6,915万円の支出超過、基本金1,400万円を組み入れた結果、当年度の収支差額は1億8,315万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は19億4,605万円の累積赤字となる見込みです。